

片所谷戸の自然を保護し、緑豊かな環境づくりを求める請願

請願主旨

片所谷戸の、ホタルが生息し、ホシザクラ（絶滅危惧種1A）が自生群生している緑地が保全され、この多様な生き物の宝庫が、次世代の子ども達に残されていくよう請願します。

請願理由

小山町の片所谷戸（京王線多摩境駅東約500m、小山が丘3号・4号・5号緑地の南、福生寺墓地東側）の自然保護につきましては、以前より多大なるご配慮をいただき、感謝をしております。

さて今般、片所谷戸の自然保護につき、大変危惧される計画が浮上しました。

「小山片所土地区画整理事業」が計画され、その組合設立準備会が出来たのです。この設立準備会には、以前から町田市も私達も片所谷戸の自然保護につき話し合いをしてきた京王電鉄（京王電鉄所有地は全区画整理地の約40%、片所谷戸部分の100%近く）も入っております。

この事業説明会が、5月11日に開催されました。その説明によると、片所谷戸の重要な部分のほとんどが「区画整理地」に含まれ、ホタルの発生する一筋の川と最も良く自生群生しているホシザクラ（絶滅危惧1A類）・ヤブザクラ（絶滅危惧1B類）の自生群生地が失われるような計画になっています。

この谷戸は、地域の開発により狭いところに押し縮められていますが、動物たちにとっては、重要な生息の場であり、境川と内裏公園を結ぶ重要な中継点です。

また、鳥類も、ワシタカ科のツミ・ノスリ・オオタカ等をはじめ、カワセミ・アオゲラ・ヤマガラ等々の来訪があり、キジは毎年子育てをしております。

ノウサギ、ニホントカゲにも出会います。冬には湧水を心配される細い川ですが、ホトケドジョウ（絶滅危惧1B類）、シマアメンボウ、カワニナ等が生息し、オニヤンマやカラスアゲハ・テングチョウ等も産卵に訪れます。

植物は、下草刈りをすれば次々に芽を出し、シダ類も含め300種に至るものが花を咲かせます。狭い地域ではありますが実に豊かな谷戸です。

もし、「小山片所土地区画整理事業」が計画通りに区画整理され、宅地化されるならば、ホタルの発生する川は失われ、湧き水の源になっている林は消滅し、住宅の光にホタルの光は打ち消され、僅かなホタルも生存できなくなっていくでしょう。

また、世界に100本しかない（発見当時）と言われるホシザクラは、片所谷戸では下草刈りにより、新しい芽を発生させていますが、その重要なホシザクラの自生群生地の殆どが失われるでしょう。

地域の小学校もこの谷戸での自然探求を教育課程に組み入れ、先生・子どもが年に数回にわたり訪れ、ホタルや植物の観察をし、夏休みには保護者と子どもと一緒に谷戸を訪れ、自然の学習を行っています。

ホタル鑑賞会には、500人を超える人たちが訪れています。

私たちはこの谷戸とその生物たちの保護のために様々な取り組みをし、各方面にもお願いしているところではありますが、開発（区画整理事業）の波には抗しきれない状況にあります。

この貴重な谷戸が私たちの子孫にも残されて行くためには、片所谷戸及びその周辺の地権者や市民に、片所谷戸は、この地域だけにしか生息していない動植物が存在し、保全しなければならない貴重な自然であることを理解してもらい、ホタルが生息しホシザクラが自生群生している地域を保全し、その周辺の雑木林・空き地・畑などを含めて公有地化を計る方向で取り組む必要があると考えます。

どうかこの貴重な自然の宝庫・片所谷戸が保存され、次世代の子ども達に残されていくよう、よろしくお取り計らいをお願いします。

以上